白黒マスク　ーホオジローー

草の上をピョンピョンと跳ねるように移動し、小さな種や虫をついばむ鳥を見かけました。スズメの仲間「ホオジロ」です。

全長は17センチメートルほど。体全体は赤みのある褐色で、背には黒い縦模様、頭には短い冠羽（かんう）があります。尾羽（おば）の両端が白く、飛ぶ時に白色が目立ちます。名前のとおり頬が白いのが特徴ですが、特にオスは黒と白の模様がはっきりしています。オスとメスは顔の筋（過眼線）で見分けられ、黒いのがオス、茶褐色なのがメスです。

地鳴き（日常の鳴き声）は、「チチッ、チチッ」と二声。繁殖期になると、オスは木のてっぺんで「チュッピン、チュチュッ、チュー」と、朗らかにさえずります。

ホオジロのさえずりは、「一筆啓上仕り候（いっぴつけいじょうつかまつりそうろう）」や「札幌ラーメン、味噌ラーメン」など、聞きなし（鳥のさえずりを、人の言葉に置き換えて覚えやすくしたもの）でも有名です。

つがいで仲良く過ごす姿を見かけたら、そっと見守ってあげてください。


ホオジロのオス（手前）とメス（奥）

陶史の森からのご案内

バードウオッチング（自由参加）
11月22日（日）、12月27日（日）
午前９時～11時
※集合場所は林泉の池堤防です。

秋から冬は木の葉が落ち、野鳥を観察しやすい季節です。野鳥たちに会いに来てください。

トキハプロジェクト　新博物館準備だより

学芸員は、いま何してる？

美濃陶磁歴史館（☎55-1245）

第31回　「伝説」と「史実」のはざまで



土岐の昔話「乙姫（おとひめ）ものがたり」をご存じでしょうか。泉町にある乙塚古墳を乙姫の墓とする伝説から創作された物語です。乙姫は『日本書紀』に登場する人物で、「乙塚」という名も「乙姫の塚（墓）」を意味しています。

伝説で乙姫の墓とされる乙塚古墳ですが、実際には飛鳥時代に東濃地方を治めていた豪族の墓だと判明しています。乙姫の時代からはおよそ300年も後であり、史実（歴史の事実）から見れば、伝説は間違いということになります。

では、史実と違う伝説には価値がないのでしょうか。決してそんなことはありません。

誰の墓か分からなくなっていた古墳を見て、昔の人々は「きっと素晴らしい人の墓に違いない」と想像を膨らませ、親しみを込めて乙姫伝説を生み出したのでしょう。伝説には、当時の人々が何を大切にし、何を語り継ごうとしたのか、その豊かな心と地域への深い愛着が込められています。

史実は「起きた事実」、伝説は「人々の想い」。どちらも、地域の歴史と文化を理解するうえで欠かせない大切な財産です。

その両方を正しく理解し、未来へ伝え残していくために、私たち学芸員はこれからも調査研究を続けていきます。

※市観光協会のホームページ（2次元コード）で「乙姫ものがたり」を読むことができます。ぜひご覧ください。


▲乙塚古墳（石室は毎月第２日曜日に公開されています）